



1. とも発生した集中豪雨禍
2. 天下る高級官僚？
3. 理工科系に俊英を集める
4. 住民との対話を

1. 西日本一帯を襲った7月集中豪雨による被害は、都市河川のはんらん、土砂くずれによるものが大部分で、政府も本格的な対策にのりだすことになり、その方針として中小河川、都市河川の改修に重点をおくこと、崩壊の危険箇所への補強工事を行なうこと、宅地造成の規制を強化することなどが取り上げられた。このような対策はもちろん必要であるが、われわれが考えねばならない点は、特に都市において防災と開発とのかね合いをどのように考慮すべきかということであろう。防災に重点をおくあまり、いたずらに開発を無視することがないように、計算や実験によって得られた値の信頼度を常に頭におきながら、また開発・利用を考えた場合の防災にはより多くの事業費がかかることを覚悟のうえで、開発・利用に対して認めるべきものは積極的に認める考え方が望ましい。その代りに、真に防災上認め難いものは徹底的に拒否するという姿勢で臨むことが大切である。また崩壊の危険箇所の予想および補強工事については、すでに県当局で調査を行なっているように聞くが、綿密な専門的調査によって重点主義で行なわない限り、総花的な効果が上らない結果に終わってしまうであろう。行政当局にとっては常に頭を悩ますむずかしい問題であろうが、この際に新しい構想をもって前進する道を開いてもらいたいものである。 [C]

2. 参議院議員運営委員会で高級官僚の入り問題が取り上げられてから、その退職金や給与、さらにははしご人事となかなか華やかな記事がニュース画や賑わしている。これらの記事が高い次元で官僚の質の向上という方向づけをねらっていることを疑うものではないが、とかく世人に訴える感覚はけん制的で、そうである限り官僚の質の低下につながらないとはいいい切れない。近年特に社会発展の速さがいちじるしく、社会全体の計画性やその計画の実行力が国あるいは自治団体の将来を大きく支配するものと思われるが、こういった面における官僚の役割は非常に大きく、その質の向上を社会全体の立場からもっと真剣に、建設的に考えなければならない。ことに土木技術者は社会投資を担当するものであり、きわめて大きな責務を負っている。いわゆる技術屋という言葉はとかくわれわれをして狭い殻の中に自らを閉じこめがちであり、その殻の中からの主張も多いようであるが、その殻を破ってものを考えてこそ、始めて官僚の質の向上という前進につながると思うがいかがであろうか。 [J]

3. 昨年の秋に出された中央教育審議会の後期中等教育に関する答申の中で強調されていた“高等教育の多様化の必要性”に答えるものか、8月25日づけの新聞の報ずるところによれば、文部省は来春から普通科高校に「理数科」を設けることにしたようである。近年高校への進学率が急伸し、学習の「消化不良」を起す生徒が30%も出ている現状にかんがみ、将来理工系の大学への進学専門コースとして、科学技術の発展をおしすすめる人材を育てることを考えているらしいが、結果的には成績のすぐれた生徒のエリートコースとなる可能性も十分あり得ることである。初年度は、各都道府県に1クラスずつモデル学級を設置する方針と聞くが、科学技術を中核とする文明社会の建設が当面の課題である今日、注目すべき企画とみられる。反面、教育の機会均等の原則からほど遠い環境が全国いたるところに存在する現状にも目を向けたい。

次代をにう青少年教育に国の盛衰がかけられていることを思うとき、特に科学技術教育全般の確固とした方向づけを望みたい。 [E]

4. 充実した社会生活を送る国民の社会基盤を守り育てるのが土木技術者の仕事と考えるならば、国民と土木技術者間に何等かの交流があって然るべきであるが何に原因するのかこの間にいままでほとんど会話がなされていなかった。それゆえにか、ままわれわれの考えていることが国民に伝わっていなかったり、この逆の場合が生じてときどき巷間の話題となっている。ますます増大する工事量に比例して、今後ますます国民との間にいろいろなケースの会話が必要とされてくる。当面の指導者である技術者はもとより、その候補生諸氏にあっても、時代の要求する広報の技術、すなわち TV、新聞、雑誌、講演等のようなときにあっても、常に相手がこちらの考えていることをよく理解できる表現方法がとれるように日頃からその道の研究が必要なきときにきているのではないかと、近頃特に感づるようになってきたが、いかがだろうか。 [E]